

2012.12.1

「民主党に鉄槌を！第三極は第二民主党！」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は12月1日、土曜日です。いよいよ12月になり、まもなく衆議院選挙が始まります。今回は選挙の争点について皆様方にもう一度お話しさせて頂きたいと思います。今回の争点は只の一点、民主党の三年間の政権運営です。しかし、これが最近どうもよくわからなくなってきました。その原因は、第三極と呼ばれる政党が雨後の筍のように次から次へと出てくることです。そして毎日のように合従連衡を繰り返していきます。そのたびにマスコミはその後追いのような話ばかり報道することになります。その結果、結局は争点が見えなくなっています。ですが、これこそ彼らの術中にはまっているのだと思います。

何度も言いますが、今回の争点は三年前の民主党のマニフェストによる政権奪取がどういう成果を生んだのか、もっといえば初めから出来もしないマニフェストを掲げて詐欺的な手法で政権をとったのではないか、ということです。しかも、実際にやってきた政権運営の中身は売国的なものでした。外交も安全保障もガタガタになっています。それが民主党政権による政権運営の成果なのです。

本来、自民党と民主党の小選挙区における争点は、三年間の民主党の政権運営がどうだったのか、という点に集中すればそれで済んだのです。

ここで話をややこしくさせているのが、第三極の政党が雨後の筍のように次から次へと出ていることです。彼らは毎日のように合従連衡を繰り返し、その政策目標も毎日のようにころころかわります。マスコミが彼らの行動を後追いで報じるのは仕方ないかもしれません。ですが、その結果、国民は何の為に選挙をやるのか分からなくなって、第三極が目立つだけになっているのです。これこそ、第三極の思うつぼです。何度も言いますが、今回の選挙は民主党政権の評価を問うものです。そして、成果を問う時に考えなければならないのは、言ってきたことが全く根拠のない出鱈目だったという事です。また、やってきたこともとんでもない出鱈目だったということです。

そう考えてみますと、今の第三極は民主党と全く同じことをやっているわけです。そもそも、第三極に所属されている国会議員の大半が、元民主党議員なのです。民主党政権の出鱈目さが露呈し、民主党で選挙に出ても勝てないから民主党から出て行ったのです。泥船からの脱出であり、溺れる者は藁をも掴む、の心境で人気のある党に出て行ってしまったのです。

しかし、初めから信念があって選挙に出たわけでもなければ、政策が合致していたわけでもありません。自分が受かりたいがために藁にすがっているにすぎないのです。このことを皆様方にもう一度確認して頂きたいと思います。

その上で、第三極は何をいっているのでしょうか。その多くは脱原発、卒原発、原子力エネルギーについて否定的なことを言う事で耳目を集めようとしてい

ます。そのような意思がありありと見えてくるのです。これこそ、民主党の三年前のマニフェスト選挙と同じことなのです。三年前の民主党のマニフェスト選挙においては財源もないのに子ども手当をする、高速道路の無料化をする、このようなことを、しゃあしゃあとしゃべっていたのです。このことは、政権を取ったらできなかったのではなく、政権を取る前から出来ないことは分かっていたはずなのです。

ですから、私たち自民党は国会の中でも、例えばガソリンの暫定税率を無くす話では、いったいどこから代わりの財源を出すのか、彼らが法案を提出した段階で質問致しました。ですが、全く答えることが出来ませんでした。とにかく彼らは政権をとったら出来るのだ、そのような主張に終始していたのです。最初から出来ないことを知りながらもデマを垂れ流していたと言っていると思います。そしてこうしたことをマスコミがきちんと報道しないがために彼らに政権は移ってしまったのです。しかし、現在においては、彼らの言っていたことはおかしい、ということが皆さんに共有されるようになっているかと思えます。

同じように、第三極が言っている脱原発、卒原発という話も原子力の代わりにどのようなエネルギー源を使うのか、という話について具体策がまったく見えません。ただ単に 20 年、30 年後に原発を無くしたいといっても、どの類の再生エネルギーや火力に頼るのか、きっちりと工程表を出して頂かなければ議

論になりません。ところが、節電したらそれでいい、とか技術が進歩したら出来るのだ、とか何の根拠もありません。そんなことをやってしまうと、財源のないマニフェストと同じで、実際にやってみたら出来ませんでした、という話になりかねないと思うのです。

本当に原発を停めてしまうと、今北海道では停電が起き、寒い中凍えていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいますが、同じことが全国で起きうるのです。夏の暑い時に熱中症でなくなる方もいれば、暖房がつかずに寒さでなくなる方もいるでしょう。そもそも、電力が不足して産業が成り立たなくなり、給料自体がもらえない、つまり、失業者の山ができあがってしまうことになるのです。

これをどうやって食い止めることができるのでしょうか。税金も採れなくなりますから、財源が無くなり、まさに国家の崩壊ということになってしまうのです。そういう出鱈目を第三極の方々は、平然といけしゃあしゃあと仰っているわけで、民主党の財源のないマニフェストと同様とんでもない出鱈目を言っています。

民主党の議員ですら私に言います。我々民主党も先の選挙では少々言い過ぎた。しかし、西田さん、我々よりあの第三極、よくもまああんなでたらめをいえるな、とこっそりお話しする方もいました。私もそのときはうなずいていましたが、民主党にそんなこと言う資格はありません。しかし、民主党の議員ですら、この出鱈目には呆れかえっています。これが、実は現実なのです。

そして、このことをマスコミの記者諸君も知っているはずですが、ところが、これが今の日本のマスコミの出鱈目なところなのですが、各政党の言っていることを、そのまま伝えることが公平だとこのように思っているでしょう。しかし、そうではないでしょう。明らかな出鱈目は出鱈目としてきちんと評価を下すことがジャーナリズムとしてのマスコミの仕事なのです。マスコミがそのような機能を果たせないことを知っているから、第三極はマスコミが食いつくような驚くことを言ったり、合従連衡を繰り返したり、じゃんけんで候補者決めればいいのか出鱈目を平気で言うのです。

今回の選挙における一番の意味は民主党という三年間の政権運営にピリオドをうつことです。そして、三年間の評価を国民がしっかり下さなければなりません。同じ理由で、第三極が言っていることも根拠がないことから、国民による批判が与えられないと、比例区は日本維新に入れてみようか、とかそんな気軽なつもりで投票されると、政策、人物のどちらでも全く評価できない人物が知らないうちに比例票の寄せ集めで受かってしまうことになります。

そして、そのような方々が何十人も国会に出てきた時に出てくるのは、混乱した、三年前の民主党による出鱈目な国会運営になりかねない、ということです。ですから、国民の皆様方にそのようなことにならないように、賢明なご判断を頂きたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。